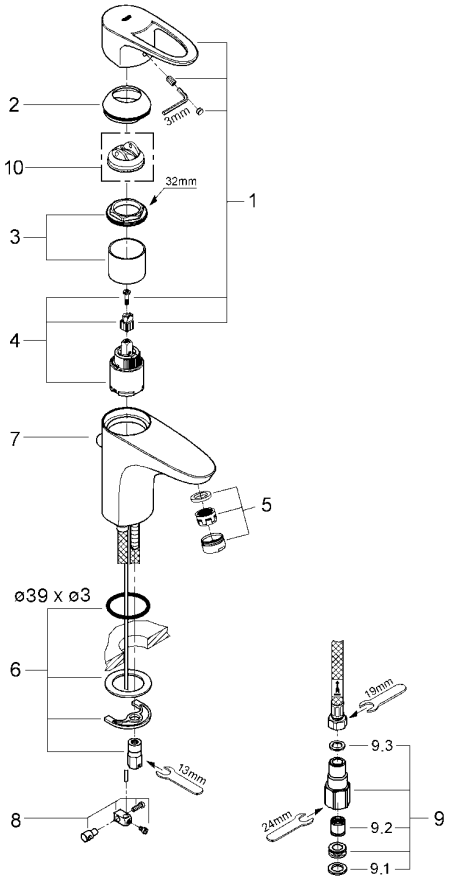
シングルレバー洗面混合栓施工説明書

機種名	一般地用品番	寒冷地用品番
アリュール	３２２５５０００	
アリュール(引棒なしタイプ)	３２２５１００Ｊ	
リネア	３２１１５００Ｊ	
リネア(引棒なしタイプ)	３２２５２００Ｊ	
テンゾー	３３３４７００Ｊ	
テンゾー(据置き洗面器用引棒なし)	３２４２７００Ｊ	
エクトス	３３３５４０００	
タロン	３３６３９０００	
キアラ	３２４９５０００	３２４９５００Ｃ
ユーロプラス	３３２５２００１	３３２５２００Ｃ
ユーロプラス(引棒なしタイプ)	３３１６３００Ｊ	３３１６３００Ｃ
エッセンス	３２１６４０００	３３５６２００Ｃ
エッセンス(引棒なしタイプ)	３２１６５０００	３３５９６００Ｃ
ユーロディスク	３３０１８００１	３３０１８００Ｃ
ユーロディスク(引棒なしタイプ)	３２９０６００１	３２９０６００Ｃ
ユーロスタイル	３２３５７００１	３２３５７００Ｃ
ユーロスタイル(引棒なしタイプ)	３２３５８００１	３２３５８００Ｃ
ユーロスマート	３２９０９００１	３２９０９００Ｃ
ユーロスマート(引棒なしタイプ)	３２９１１００１	３２９１１００Ｃ
コンチェット	３２２０４００Ｊ	３２２０４００Ｃ
コンチェット(引棒なしタイプ)	３２２４０００Ｊ	３２２４０００Ｃ

□ 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
□ この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証　　を致しかねますのでご注意ください。
□ 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

分　解　図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	レバー
2	化粧カバー
3	止ナット
4	セラミックカートリッジ
5	エアレーター
6	締付セット
7	引棒
8	ジョイントピース
9	逆止弁アダプター
9.1	1/2 パッキン
9.2	逆止弁φ15
9.3	3/8 パッキン

※図は３３２５２００１です

※カウンター穴あけ寸法は 34～φ37 で行ってください。
カウンター厚 30㎜ 以下。

安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。
※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバー、ハンドルが閉じていることを確認してください。
※漏水で、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

使用条件

● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.05Mpa〔0.5kgf/C㎡〕)～(最高圧力 0.74Mpa〔7.5kgf/C㎡〕)の範囲とします。
給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大３：１以内）になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16 号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(Ａ＋0.05Mpa〔0.5kgf/C㎡〕)～(最高圧力 0.74Mpa〔7.5kgf/C㎡〕)の範囲とします。給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大３：１以内）になるようにしてください。

※Ａはガス給湯器の最低作動圧力です。
※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。
レバー、ハンドルは全開です。
ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度 5℃、吐出温度 40℃）によるものです。
給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
ガス給湯器の温度調節は最高温度（60℃）設定です。

◇給水圧力が 0.74Mpa〔7.5kgf/C㎡〕を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

● 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。
● 給湯に蒸気を使用しないでください。
● 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

施工前の注意

● 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
● 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
● 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。
● 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。
● 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。
● 配管接続部を隠ぺいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。
● 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。
● 逆止弁（接続）アダプターの接続ねじは平行ねじ G1/2 です。テーパねじ（TP1/2,R1/2）には使用しないでください。また止水には付属のパッキンは必ず使用してください。

施工手順

１．本体の取り付け（図１参照）

①本体付属部品を収納している小袋から、水漏れ防止用パッキンを取り出し、本体に取り付けてください。
②アリーウ、テンゾーは、化粧プレートを本体と水漏れ防止用パッキンの間に入れてください。
③引棒は本体後側の穴に、あらかじめ差し込んでいてください。
④本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。本体（吐水口）が正面に向くように図の通りセットしカウンターうらからゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーを挿入し、締付ナットで締め付けてください
※ゴム製平パッキンと馬蹄形ワッシャーがきちんと重なっていること。又、本体水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。水栓を固定する際、取り付け穴が水栓本体の中心にくるように取り付けてください。
※水栓本体が確実 に固定されていることを確認してください。動く場合は、再度締付ナットを締め直してください。
※馬蹄形ワッシャーには上下があります。縁どりしてある平らな面が上になります。
※固定には別売（市販品）のソケットレンチ等を使用して確実に締め付けてください。
※本体の固定の際は馬蹄形締付金具が給水・給湯管に無理な力が加わらないようにしてください。
※給水・給湯管は折れたり、つぶれないよう注意してください。

２．給水・給湯管の接続（図２参照）

①同梱の接続アダプターを止水栓にネジ込み確実に固定してください。
※締付は、200～300kgf･cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。
②給水・給湯管を接続アダプターに接続してください。
※ホースがねじれないように配管してください。
ホースがねじれて配管されますと、加圧した際ホースを取り付けたナットの緩みの原因になります。
※給水・給湯管が折れないように注意してください。
管を曲げ半径（６０㎜）よりも小さく曲げて使用しますと、管の内部が折れることがあり、折れた部分から早期破壊を生じる可能性があります。施工時には、最小曲げ半径（６０㎜）よりも小さく曲げないように、ご注意ください。
※本体と管の間は回転しますが、シールには影響ありません。
※水栓本体端面から極端に給水・給湯ホースを屈曲して、施工しないでください。
※管同士の不要な接触は避けてください。
外部補強層の磨耗による外傷で性能の劣化の可能性があります。

３．引棒の取り付け（図３参照）

引棒はあらかじめ本体取り付け時に、本体に差し込んでいてください。また給水・給湯管、締付セットに接触してないことを確認してください。
①梱包箱の中からジョイントピースを取り出し、カウンターの下部で引棒に差し込んでください。
②別売の排水金具のキックレバーにジョイントピースを差し込み、固定ビスで締め付けてください。
※引棒とキックレバーとの接続は、垂直にクロスしている部分で行ってください。引棒を極端に曲げて接続しますと、操作が重くなります。
※緩まないよう、確実に締め付けてください。

図１

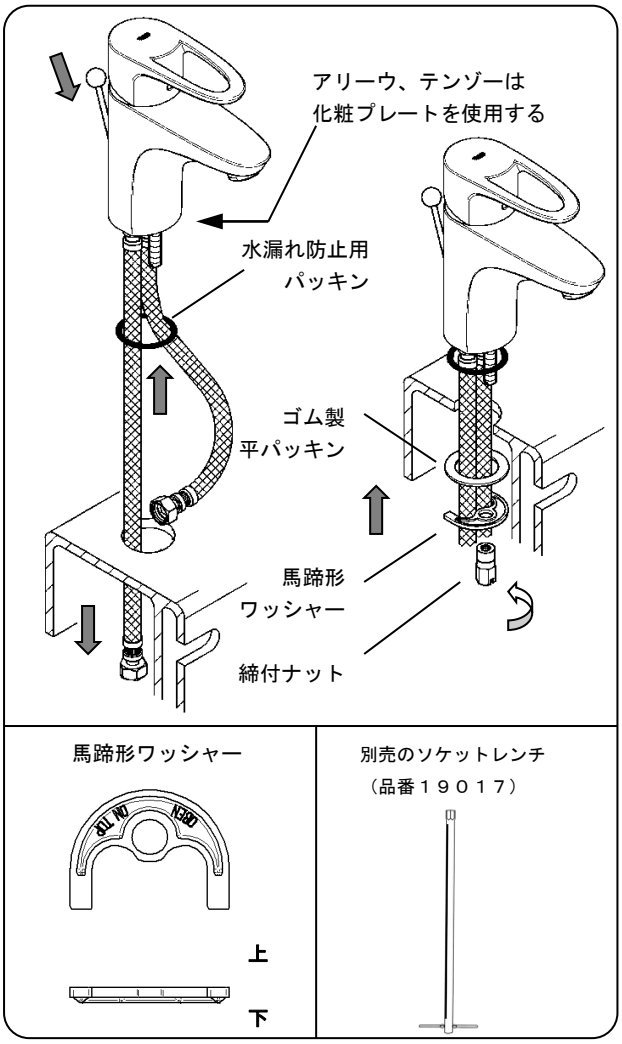


図２

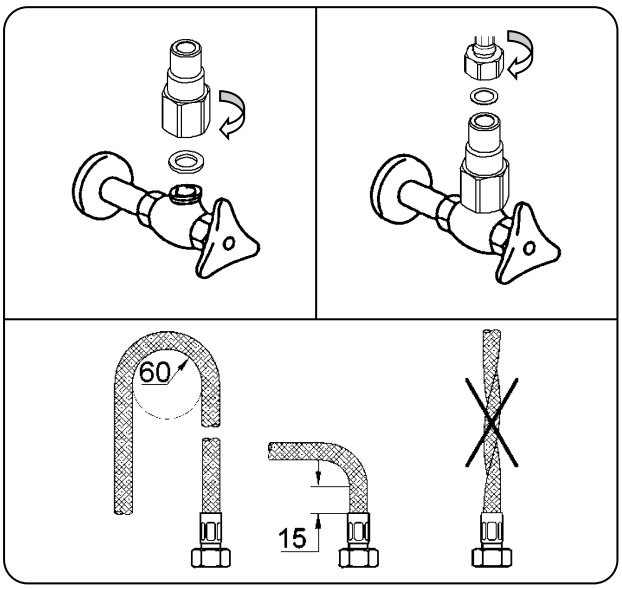
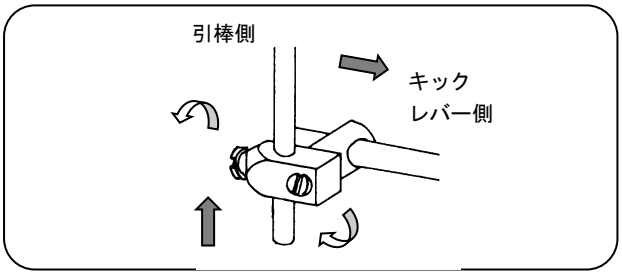


図３



施工手順

エクトス、タロン（銅パイプの場合）

２．給水・給湯管の接続（図４参照）

①本体の給水パイプを図の通り、止水栓の取り出し芯に合うように曲げてください。
※止水栓より５０㎜以内では、パイプを曲げないでください。
※パイプはなるべくゆるやかに曲げ、垂直部分が長くなるようにしてください。
※パイプがつぶれないように注意してください。
※パイプは回転しますがシールには影響ありません
②止水栓に同梱の逆止弁を仮固定した後、給水・給湯パイプの差込代２０㎜を確保し、余った部分をパイプカッター等で切断してください。またバリが出来た場合は必ず取り除いてください。
③給水パイプに袋ナット、テーパーリング、座金、ゴムパッキンの順に入れて、逆止弁に差し込んでください
④仮固定しておいた逆止弁を止水栓にねじ込み、確実に固定してください。
※締付は、200～300kgf･cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。
⑤最後に、給水パイプを逆止弁にしっかり差し込み、スパナ等で完全に締め付けてください。
※締付は、200～300kgf･cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

３．引棒の取り付け（図５参照）

①本体後側の穴に、付属の引棒を差し込んでください。
②梱包箱の中からジョイントピースを取り出し、カウンターの下部で引棒に差し込んでください。
③別売の排水金具のキックレバーにジョイントピースを差し込み、固定ビスで締め付けてください。
※引棒とキックレバーとの接続は、垂直にクロスしている部分で行ってください。引棒を曲げて接続しますと、操作が重くなります。
※緩まないよう、確実に締め付けてください。

図４

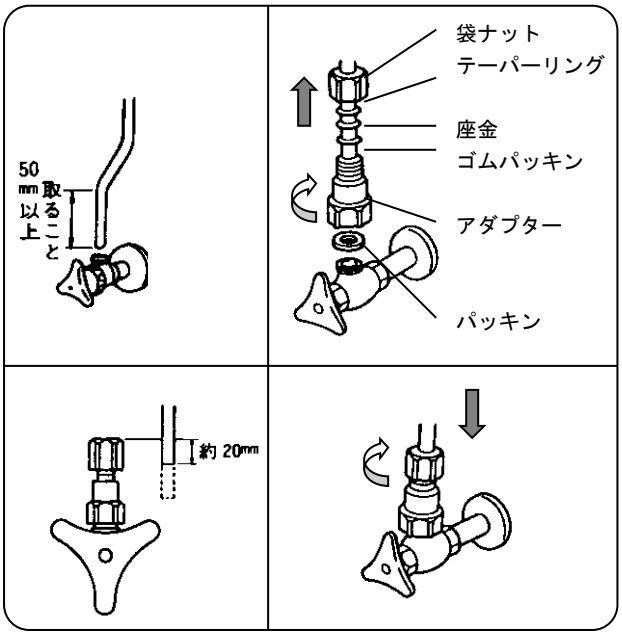
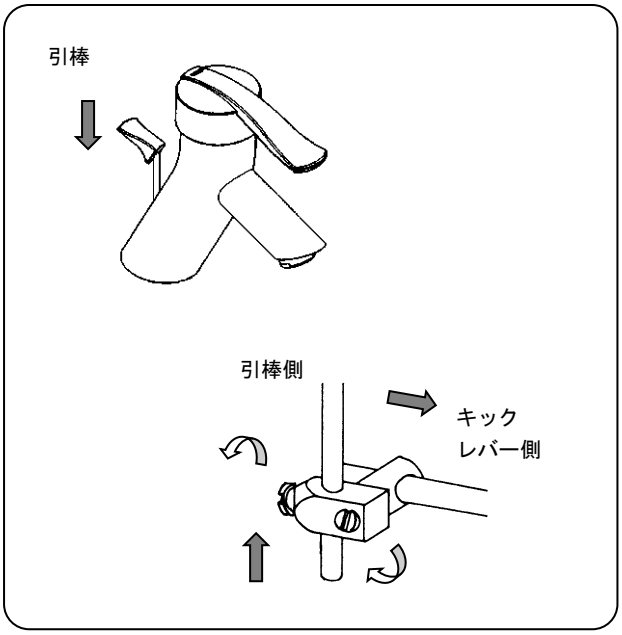


図５



取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

１．接続部の水漏れ（図６参照）

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検します。

●止水栓とアダプターの接続部。

●アダプターと給水・湯給管の接続部。

●給水・湯給管と本体の接続部。

●本体とレバーの接続部。

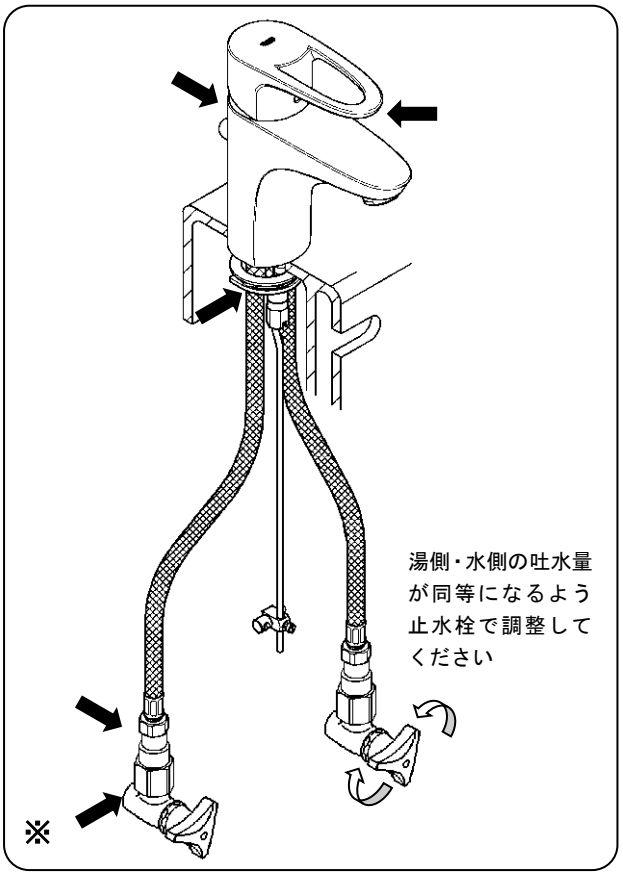
●本体と吐水口の接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

２．水量・湯温の調節（図６参照）

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。
※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

図６



故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

現象	点検箇所
吐水量が少ない	１．２．７
水が止まらない	３
温度不良	１．３．７
レバーがガタつく	４．５
カウンター内に漏水する	６
洗面器の排水栓が動かない	８

